



浜松観光ボランティアガイドの会

「ふじのくにしずおか観光大賞 奨励賞」受賞

この度、公益社団法人静岡県観光協会主催による「令和2年度公益社団法人静岡県観光協会観光功労表彰式」において、当会が「ふじのくにしずおか観光大賞 奨励賞（団体）」を受賞しました。

表彰式は、10月16日（金）14時から、静岡市葵区紺屋町のグランディエール プケトーカイにて開催されました。

今年度の表彰対象者は、個人の部として、東海旅客鉄道（株）沼津駅長様、東日本旅客鉄道（株）横浜支社熱海運輸区長様、（株）東海バス下田営業所副所長様、遠州鉄道（株）浜松東営業所長様、（株）東海バス松崎営業所副所長様の5名の方と、団体の部として、「ふじのくにしずおか観光大賞 大賞」を、公益財団法人するが企画観光局様が、また「ふじのくにしずおか観光大賞 奨励賞」を、遠州木三（きみ）の里連（代表 榊原淑友様）様と、浜松観光ボランティアガイドの会（代表 大村真佐夫）が対象となりました。

静岡県観光協会会長（川勝平太 静岡県知事）より、表彰式開催に当たってのあいさつの後、5個人、3団体代表者が壇上に上がり、会長より各々、表彰状と記念品が授与されました。

受賞後、被表彰者を代表して、公益財団法人するが企画観光局の専務理事池田文信様より謝辞の挨拶がされた後、記念写真を撮影して終了となりました。



表彰状を受ける大村会長

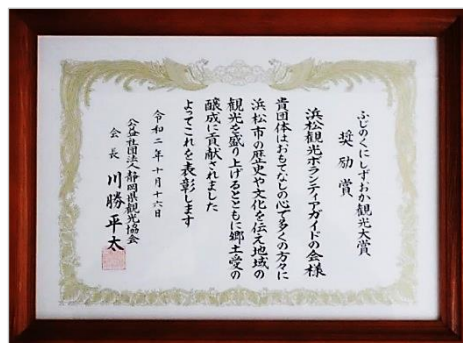


川勝観光協会会長（前列中央）と記念写真

表彰式出席に関連して、この度、浜松市長鈴木康友様よりご推薦を頂いた関係上、10月20日の午前中に市役所を訪問して、副市長の長田繁喜様に推薦のお礼と、受章の報告をしました。



表彰状、記念品と共に長田副市長
（写真左より2人目）と記念写真



表彰状

今回の受賞を機会に、浜松観光ボランティアガイドの会として、会長以下会員全員で、今後さらに充実したガイド活動に精進して参りましょう。

広報部 小池輝夫（東ブロック）

浜松市博物館特別展 浜松城 -築城から現代へ-

記念講演会 「浜松城と家康の城」

浜松市博物館特別展「浜松城-築城から現代へ-」の記念講演会が10月18日(日)、クリエート浜松2階ホールで開かれた。城郭考古学者・奈良大学教授の千田嘉博先生が講演し、「浜松城と家康の城」を語った。

参加応募者606名の中から抽選で選ばれた約200名が参加した。お城好きな参加者には興味深い内容満載で予定時間の1時間40分はあっという間に過ぎた。講演内容の一部は次のとおりである。

家康の城造りは日本の近世城郭に大きな役割を果たしている。その原点に当たるのが浜松城である。浜松城は素晴らしい城跡が残っていて、浜松市は考古学的な視点から実像に迫っていきこうという新しい取り組みで発掘調査等精力的に行っている。歴史を生かした街づくりの中心は浜松城である。近年の発掘踏査で2代目城主の堀尾吉晴時代に大規模な改修を行って、大きく変化していったことが分かった。

18世紀以降、三の丸が整備され大手門が作られた。今回初めて大手門跡を訪ねたところ「大手門ビル」の名称の建物があり、ここが大手門跡だと当時を偲ぶことができた。

新しく発見された「遠州浜松城絵図」を初めて見て感銘を受けた。これまでで一番古い状況の17世紀初頭の様子が良くわかる。屋根の種類が色分けして描かれている。お城の建物のかかなりの部分が「こけらぶき」であり「瓦ぶき」は少ないことが分かる。これまでの絵図では二の丸の塀が途切れているところがあり、道と繋がっている。お城ファンとしては「なぜ、こうなっているのか？」との疑問があった。新しく発見された絵図では二の丸は堀と塀で全周が繋がって描かれている。このように城は色々な変遷があることが、時代別の絵図を見比べることで分かる。

浜松城は面白い造りになっている。天守の周りを石垣で囲っているのを詰丸(つめのまる)または天守曲輪と呼んでいる。詰丸から一段下がったところに本丸がある。これは安土城とよく似ていて信長、秀吉の時代の天下人の城と同じであり、格式ある造り方をしている。

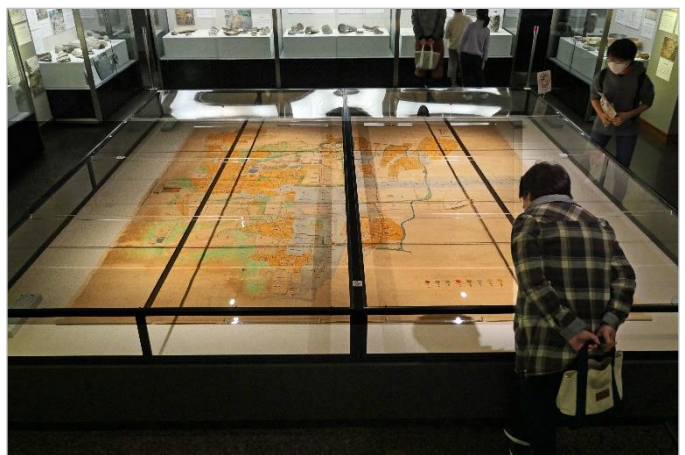
浜松城は家康の時代に天守曲輪に御殿が建っていたか?この謎を解くには古い時代の絵図が新たに発見されるか、その部分を計画的に発掘調査することで、天守曲輪がどう使われていたか見えてくる。江戸時代の残された絵図をみると天守と櫓門と廻りの塀があるが天守曲輪の中には何も建っていない。もし、家康時代に岡山城のように天守曲輪に奥御殿がある使い方をしているならば、全く違う浜松城の姿が考古学的に見えてくる。これは浜松城のイメージの根幹に関わることなので今後の楽しみにしたい。

今回の特別展の目玉のひとつの「青山家御家中配列図」は壮烈な巨大な絵図を全部展示している。縦3.27m横3.06mの大ききの前に立って「今回、見せていただいて涙が出ました」。大きな絵図は貴重なものだから当然ケースに入れなくてはならない。絵図もすごい展示ケースもすごいので皆さんに是非見ていただきたい。

安政元年の絵図にも榎門のところに大きな広場がある。これが何か?これは「馬出」と考えられる。武田信玄は関東の北条氏と一緒に早くから馬出を作った大名である。武田と激戦している家康は武田の城を知ること、早くから馬出を知っている可能性がある。家康は信長の武将の中では、もっとも早く馬出を城づくりに使いこなすことができた武将として評価して良いと思う。

改めて家康という天下を統一した武将を軸として浜松城をみていくと、浜松城は大きな意味を持っている。地中に埋まっている本当の浜松城が解明されて整備されると、ここで城の歴史を体感できるようになれば、その姿は最終的には江戸城、名古屋城、大坂城にも繋がっていく。ここ浜松城が原点である。

日本の近世城郭の成立の過程で浜松城が果たした大変大きな役割を、地元の市民の方はもちろん全国の方が体感できる素晴らしい誇りを持つ場所になると思う。この特別展では、浜松城の根本的な資料が網羅的に展示されているので、より多くの方に是非見ていただきたい。



「青山家御家中配列図」の展示 (浜松市博物館)

ライftime発表会開催される

9月29日(火)静岡大学附属浜松中学校に於いて、標記発表会が官公署、一般事業所及びボランティア等22団体が招待され行われました。

当会としては、3グループ10人の生徒さんの発表とコメントを担当しました。「ライftime」と称するこの活動は、「よりよい社会を創るとは」を共通テーマに、中学三年間を通じ取り組んだ「社会をよりよくする」ためのアイデア発表の場とし、発表と一般人との意見交換の場が設定されたものです。3グループ共通の浜松の印象は、「素晴らしい資源を持っているのに情報発信が弱い。隣の長野県での実習でも痛感した」とのこと。若い人達の浜松感に、よく見ているなど全く同感。

(発表内容)

1. 自分の地域に興味を持つ、郷土愛を持って双方向の発信、受信をして未来の景色を作ること。多くの人がもっと「浜松愛」を持つこと。浜松愛のアンケートを増やしていく提案があった。
2. スタンプラリーを活用した活性化の推進。
対象を浜松市内在住の子供のいる家庭と浜松市以外の観光客とする。親と子供が一体となり、ラリーを通じて浜松の観光・産業・グルメなど幅広いPRができる。ラリーは、文化施設・食事・産業コース等、コースに応じた楽しい紹介とコースに応じた景品を用意して、リピーターを楽しませ増やしていく。
3. ホームページ&パンフレットの作成。
今後浜松市を背負っていく若者に、浜松を知り未来の浜松の活性化を図ってもらう。カレンダーを活用した情報の活用、イベント、趣味、グルメ等その人が欲しい詳細な情報を掲載する。企業とタイアップしたパンフレットの作成。魅力あふれる表紙にQRコードを付ける。若い人が関心を持てる現代の利器を活用する。

詳細は省きますが、純真無垢な提案がありました。浜松は発信力が弱い。発表を聞いてドキッとしました。ガイド活動も浜松発信に今以上の進化が必要ではと思った次第です。

会長 大村真佐夫 (東ブロック)

浜松市動物園協会での講義

台風14号も南方海上に去り、10月11日(日)は素晴らしい秋晴れとなりました。この好天にコロナど吹く風と浜松市動物園は賑わっていました。

講義は、園内の協会施設に20名が参加。参加者は、60歳代?女性が多かったです。「お話し会」という雰囲気で行われました。当会からは、私と鈴木事務局長の2名が参加しました。



講義の様子

浜松市動物園は、昭和25年県下で一番早く開園、昭和58年現在地に移転しました。動物園協会は、昭和45年浜松青年会議所有志が中心に発足。現在はNPO法人としてサポーターを募り、動物の餌の購入、園の設備、動物の保護、イベントの実施など動物園を支援している団体です。ガイドさんは、協会に属し、協会の仕事の補助や動物の説明やイベントの補助等広く活動しています。招かれた理由は、協会役員の方が市役所勤務の当時、当会の業務に関わった縁でとのこと、覚えていただきうれしく思いました。

講義内容は、ボランティアとしての考え方、心構えを最初に話しました。ボランティア活動は、「させていただく心」と「活動の機会を与えていただいているという感謝の心」が肝要。自分の仕事が好きになり自分が楽しくなること。これがお客様に楽しんでいただけることに繋がる……。

観光ボランティアガイドは「何でも屋」。自分のエリア以外の情報提供もお客様サービスに繋がります。自己啓発が常に必要になります。また、ボランティアといえど基本は組織であり、活動は有償無償関係なく約束事になります。当然信義という責任も生じます。当会の模様は、組織、活動場所、訓練研修等活動状況を資料に沿って説明しました。ガイドの形は違いますが、お客様の「おもてなし」という観点から共通点があります。特徴を生かした「おもてなし」で、浜松に一人でも多くのお客様をお招きできることを期待して講義を閉めさせていただきました。

会長 大村真佐夫 (東ブロック)

「浜松城のリニューアル」についてお知らせ

展示品の入れ替えや、レイアウト変更（詳細は不明）がされます。

- ・工事期間：11月2日から12月28日まで。
- ・天守閣は休館としますが、天守門は開館します。
- ・天守閣リニューアル工事期間中は、ガイド活動は休止とします。
- ・2021年(令和3年)1月1日に、リニューアルオープンします。
- ・オープン後しばらくは、混雑を避けるため、天守広場にテントを設営し、臨時の入場券売り場とする予定です。
- ・当会用の休憩室が、浜松城東南角（石落としの付近）に設置されます。
- ・当会用の現事務所は廃止され、浜松城公園駐車場内（公園管理棟の南側）に新設されます。
- ・当会のガイド活動は、例年通り2021年1月4日からとします。

～訂正とおわび～

会報10月号に誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

- ・3ページ右上写真の説明文 誤：近藤用隋(もちゆき)公像 ⇒正：二宮尊徳翁像
- ・3ページ右上写真の説明文および記事の下から2行目 誤：用隋 ⇒正：用随
- ・3ページ県民の日イベント記事の下から1～2行目 誤：用隋公⇒正：尊徳翁
- ・3ページ新入会員の入会動機記事の下から10行目 誤：良章 ⇒正：好章

10月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所他に「浜松市観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体			
	*	浜松特別支援学校	2回 50名
	*	静岡北特別支援学校	2回 60名
	*	阪急交通社	2回 42名
1日	木	豊西小学校	61名
		山梨県八代小学校	84名
2日	金	積志小学校	151名
9日	金	富士宮市富丘小学校	138名
13日	火	北浜東小学校	52名
		藤枝市立大洲小学校	92名
14日	水	三島市立錦田小学校	104名
15日	木	北浜南小学校	58名
		都田南小学校	82名
16日	金	静岡市立清水船越小学校	113名
21日	水	和田小学校	112名
		甲府市立白根東小学校	57名
		与進小学校	159名
22日	木	長泉町立北小学校	179名
23日	金	島田北部連合小学校	51名
		富士宮市立貴船小学校	120名

29日	木	和地小学校	80名
		三島市立南小学校	105名
	*	上記以外に50名以下の19団体	421名

《犀ヶ崖資料館》

1日	木	豊西小学校	62名
2日	金	積志小学校	80名
15日	木	都田南小学校	80名
		北浜南小学校	58名
20日	火	曳馬小学校	60名
21日	水	与進小学校	97名
	*	上記以外に19名以下の4団体	52名

《浜松まつり会館》

8日	木	藤枝市立青島小学校	127名
9日	金	藤枝市立青島小学校	100名
13日	火	北浜東小学校	56名
16日	金	葵西小学校	87名
21日	水	藤枝市立高洲南小学校	104名
24日	土	まつり会館おそとdeふえすた開催	565名

はままつ案内人会報 220号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索

